

苺の定植後の管理について (NO1)

R34.9

アグリ技研 (株)

冬にかけてラニーニャ現象続く傾向

1. 活着・発根促進対策について

「定植後 30 日前後で根の環境も決まります」

「定植後の灌水は、株元を中心に少量多回数を行いましょう」

- ①定植後の発根促進効果に灌水処理の場合 (灌水チューブ使用)
 - ◎アミクエ 5～10 k/10a を 5 日置きに灌水処理
- ②手灌水の場合は、株元や根鉢灌水処理
 - ◎アミクエ 500 倍を 5～7 日置きに灌注処理

2. 第 1 次腋果房分化対策 (10 月上旬～中旬)

- ①定植後芯葉 2.5 枚展開後～
 - ◎P・K ゴー2000 倍で葉面散布 (3～5 日毎) に 3 回前後散布
- ②株冷、夜冷苗の徒長防止対策
 - ◎P・K ゴー1500～2000 倍で葉面散布 (状況に応じての処理回数)

*2 果房の花芽分化促進のポイントは

- ① 被覆資材での日中下温と日長対策 (日中の温度を下げて分化促進)
- ②灌水量の調整 (少量) ③PK 肥料の調整 (N のコントロール)

3. 分化確認後の追肥「全品種」(10 月中旬～)

- ①液肥の場合は
 - ◎アミクエ 5 k にウルル 7 号 10 k/10a を灌水処理
- ②果房の充実・根張り強化維持対策
 - ◎カウボン 1 袋/10a (マルチ前処理)
- ③マルチ前の追肥には、味太郎 3 袋/10a 施肥
 - ◎有機肥料の為に、キノコバエ多くなる場合があります。(粘着トラップ)